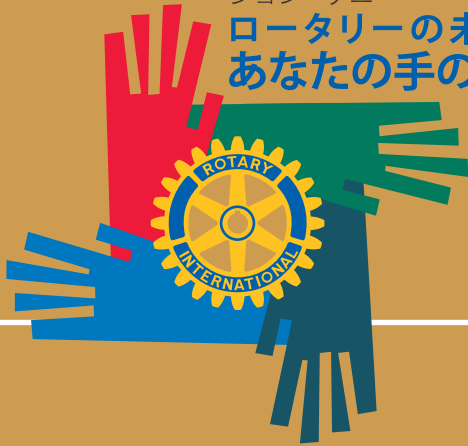


2009～2010年度 国際ロータリーのテーマ
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は
あなたの手の中に



会長／対馬健一 幹事／中出敏彦

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

プログラム

- 本日
慶祝夜間例会／富丸
会員誕生日
9月18日 大嶋 孝広
- 次週予定
法定休日

No. 2388

第11回 9月16日

出席報告

前
例
会

会員総数	43名
出免会員	4名
出免出席	2名
出席会員	30名
出席率	78.05%

前
々
会

第8回 8月26日

出席会員	37名
メイクアップ	2名
修正出席率	86.05%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F



会長報告

- 留萌ゲートボール協会、渡辺会長より8月29日開催の創始者杯ゲートボール大会の礼状を頂きました。
- 次回例会も慶祝夜間例会で例会場が変わりますのでご注意ください。

引かれて階段リハビリをしていました。皆様によろしくとの事でした。

3) 都市連合会(IM)の報告書が届いておりますので本日配布いたします。

ゲスト

留萌市教育委員会 学芸員 高橋 勝也様



幹事報告

- 小平RCより例会変更の案内を受領しました。9月11日夜間例会のため、文化センターよりゆったりかんへ変更。時間は午後6時30分点鐘です。
- 山本会員のお見舞いに行き参りました。順調に回復し、今月末頃までには退院予定だそうです。昨日もきれいな看護婦さんに手を



委員会報告

親睦活動委員会

中川委員長

次週例会は河部会員の金婚式慶祝夜間例会です。会場は富丸で、午後6時30分点鐘です。お間違えのないようにお願いします。

 **3分間情報**

会員研修委員会 越野副委員長
「新世代のための月間」

9月は新世代のための月間です。1996年度から青少年奉仕の名称からこのプログラムの名称に変わりました。青少年奉仕は、若者を保護・育成の対象としていたのに対し、新世代のためのプログラムでは、未来を託すべき次代の担い手として青少年に積極的な役割を期待し、よりよき未来のために「新世代の生活力を高め、将来の準備をさせる」ことを目的としています。それには、ロータリー青少年指導者プログラム(RYLA)があります。これは地域の青少年指導者にロータリーの精神を浸透させる講習並びに訓練をします。広く各集団から推薦された若者が合宿し、地域青少年の指導者としての資格を体得するものです。

今年度の渡邊恭久ガバナーは「そらぶちキッズキャンプ」支援を最重点目標にしています。キッズキャンプは①患者の容態変更に対応する簡易医療施設があること。②医師や看護婦が待機すること。③病状を考慮した自然体験プログラムを用意していること、といった点に特徴がある。国内には小児ガン、難病の小児が約20万人います。彼らの多くは、自宅と病院を行き来するしか社会体験が無いのです。彼らは「自然の中に出かけることが出来ない」のではなく、「出かけて過ごすことが出来る施設が無い」のです。そんな子供たちの夢を実現させようと大学の小児科医が計画しているのを滝川市が知り私有地16ヘクタールを無償提供して誘致した。

そして6月一部オープンし、参加した高校3年生小西美咲さんは「生きる勇気と夢を貰った」と大変喜んでいました。現在滝川RCの社会奉仕委員会が協力していますが、渡邊ガバナーは、地区として後援していくことが必要なことだと、今度の地区大会で各クラブに要請すると思います。詳しくは田中ガバナー補佐よりプログラムの中で、お話があると思います。

 **ニコニコBOX**

・月曜日の日刊留萌新聞に2箇所ほど写真が載りました 西谷(英)会員

前回	307,000円
今回	1,000円
累計	308,000円

 **プログラム**

「ふるさと館見学」＝留萌の歴史を訪ねて＝
[日本海の誕生]

二千年前の昔に起きた地球の地殻変動が、アジア大陸の一部に深い海峡をつくりました。この海峡が日本海に、アジアと大陸の切れ端が留萌となったのです。

留萌は、本当に大陸の一部であったのかを、地層・地質・化石などから検証しています。そして宇宙から見た気象パネルや世界の巨大海深儀などで大陸との関係が実証されています。

[古代の留萌]

留萌の文化はどこから来たのだろうか。海の狩人がニシンを追ってたどり着いたのか、大陸の商人が日本海を渡って上陸したのか、南方の商人が日本海を北上する黒潮に乗ってやって来たのか。留萌への文化のルートとその発展を探るコーナーです。

留萌地方の最初の集落、三泊遺跡をジオラマで再現しています。そしてさまざまな文化遺品や出土した石器・土器の検証から、留萌が北と南の古代文化の接点であった事がわかります。

留萌アイヌの首長コタンビルが着用していた絢爛豪華な山丹服(北の文化)や、三泊から出土した鎌倉幕府以後に漂流した落ち武者が残したと言われている星兜(南の文化)など、海のシルクロードが運んだ南北の貴重な資料が展示されています。

[北前船の時代]

まだ、北海道ではなく「エゾ」と呼ばれていた当時、産業の要は交易商場請負によるニシンやサケ漁でした。場所は海岸沿いに点在し、通商や交流ルートは海に頼っていたのです。

その代表が北前船交易。北前船は本州から日用雑貨や衣料品を積み込んで各場所を巡り、帰りは代価としてニシンなどを積み、本州へ持ち帰るのです。この交易によって、当時の北海道の文化・経済が発展していきました。

このコーナーでは産物や北前船の航路の模型など、その当時の留萌を詳細に知ることが出来ます。

[浜の繁栄]

ニシンの漁獲量は、どれ位あったのでしょうか。現在のお金に換算するとどれほどの価値があるのだろうか。きっと漁師の方はお金持ちで素晴らしい生活をしていたの？ニシン船はどこで作っているのだろうか。このような浜の生活ぶりを知るコーナー。

留萌とニシンは切っても切れない仲。このニシンを中心とした当時の留萌の姿に焦点を当て、明治・大正・昭和の狂乱的なニシン漁の模様を写真や漁獲状況など数々の資料を図表化したパネル展示をしています。



移動例会<海のふるさと館>

